

孫の手通信



第19号

平成23年12月30日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 0475 (47) 3014

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

十二月議会開かれる

12月9日開催された第4回一宮町議会定例会は、平成22年度の決算を認定し、執行部から上程された全ての議案を可決いたしました。

一般質問では、12名の議員が質問しましたが、これは一宮町議会として過去最高の数字ということで、議会の活性化という点で大変すばらしいことです。

来春の町長選に出馬を表明

島崎保幸議員からの「就任三年半を振り返って、公約をどこまで達成したのか、今後何をしたいのか、来年5月に予定されている町長選挙に出馬するのか」という質問に私は次のように答えました。

私は平成20年の町長選挙では、町民の皆さまとのお約束であるマニフェスト『新しいまちづくり』を発表し当選させていただきました。

『新しいまちづくり』では、まちづくりの3つの目標（元気な子どもが聞こえる町、若者が集う町、お年寄りが安心して暮らせる町）と4年間の任期の中で実現に向けて取り組む具体的な23の項目を掲げました。そして、情報公開と住民参加を重視した住民協働のまちづくりを基本姿勢に新しいまちづくりをすすめてまいりました。

この3年半の歩みを振り返ってみますと、町民の皆さまに約

束した新しいまちづくりは、中学3年生までの子ども医療費の助成、妊婦検診14回の助成、一日前予約の新しいこにこサービ
スを実現し、上総一ノ宮駅のエレベーターの設置、釣ヶ崎広場
の整備も順調に進んでおります。

また情報公開と住民参加を重視した住民協働のまちづくり
についても分かりやすい予算書の作成と配布、町長室開放日、
町民提案事業、まちづくり委員会による町の新しい総合計画の
策定と着実に進めてまいりました。

私が町長に就任したとき、財政調整基金は5億1,120万5
千円、庁舎建設基金は、1億9,213万3千円でしたが、不要
不急の工事や事業を見直し、現在財政調整基金は、7億7,3
39万6千円、庁舎建設基金は5億3,632万8千円まで積み
増すことができました。

町民と議会の皆さまのご理解とご協力のおかげで、多くのこ
とを達成してまいりましたが、東浪見土地区画整理事業、駅東
口の開設、道の駅、幼児教育と保育を統合した子ども園の設置
など、まだまだ道半ばの事業も多く残っております。

また、東日本大震災を経験して、今改めて安全安心なまちづ
くりが大きな問題となっており、一時避難場所と防災センター
の役割を果たす新庁舎の建設、一宮保育所の移設、津波に強い
防災林の整備等、解決しなければならない課題も山積してあり
ます。

10年先を見据えた「一宮町総合計画」が今年からスタート
しました。この計画は、町民と行政の協働のまちづくりを基本
姿勢に置き、町民の皆さんと行政が一体となって英知を結集し
こんな町にしたい、こんな町に住みたいという町民の願いを込
めて、町民の皆さまの手によってつくりあげたものです。

「一宮町総合計画」に盛り込まれた町民の皆さまの思いや願
いを実現するために町長として引き続き、全力を尽くしたいと
考えて、次の選挙に立候補の決意を固めました。皆さまのご理
解をお願いいたします。

津波避難訓練

11月28日、全町を対象にした津波避難訓練が実施されま
した。

大津波を想定して行われたこの訓練には、一般住民の方が
988人、保育所305人、愛光保育園82人、小中学校併せ
て1,004人、一宮商業高等学校501人、長生特別支援学
校207人、その他一宮学園や福祉施設も協力いただき、平
日にもかかわらず町民の四分の一を越える総勢3,251人と
大勢の皆さまが避難訓練に参加しました。

東浪見小学校の児童は、遍照寺へ避難しましたが、この模
様はNHKテレビで放映されました。

町では、この訓練に先立って、避難所の見直し、緊急津波
避難マップの配布、海拔表示ポスターの掲示、防災無線戸別
受信機の配布、各種防災関係の講演会を開催するなど万全の
準備を重ねてまいりました。訓練の際に皆さまからいただいた
アンケートを参考にして、今後の防災対策を見直し、改善
を図ってまいります。

駅エレベーター運行開始

お待たせしました。

上総一ノ宮駅のエレ
ベーター工事が完成
し、12月27日から運
行が開始されました。

上総一ノ宮駅にエ
レベーターを設置す
ることは、町民の永
年の夢であり、私が、
町民の皆さまに約束
したマニフェストの
大きな柱です。



このエレベーターは、身障者やお年寄りや幼い子
供連れの方が、駅を安心して利用できるように、駅
入り口のスロープ・多機能トイレとあわせて、国・
町・JRそれぞれ3分の1ずつ負担し設置するもの
で、27日からエレベーターとスロープを利用するこ
とができるようになりました。（車椅子でも利用でき
る多機能トイレは、3月末までに完成の予定です。）

（裏面もご覧ください。）

最近の新聞より

一宮の自然を守るために

12月14日、大塚商会名誉会長 大塚実氏から町へ海岸環境の整備に使ってもらいたいと3千万円の寄付金の申し出がありました。町では、氏の意向を尊重して基金を設置して継続的に一宮海岸の環境整備を進めていく考えです。

一宮の美しい砂浜と松林に魅せられて、ホテルを建設した大塚氏は、海岸侵食と松枯れの状況を憂い、花の小径（こみち）、釣ヶ崎海岸のエコトイレ、広場の整備と一宮町の環境保全に貢献されています。

平成23年9月26日
朝日新聞

町役場建て替え 一宮町民ら議論

「建設を考えると、一宮町が計画している町役場の建て替え計画について25日、町民グループが主催する「建設を考える集い」が開かれた。新庁舎の建設場所などを主なテーマに議論が交わされた。

町の計画は現庁舎敷地内に耐震性の高い4階建て以上の建物をリース方式で建設する。

集会では9つのグループが提案を行い、高層化して一時避難場所を活用する意見も出された。

町は地震や津波対策を中心に庁舎建設を検討しているが、参加者からは「町の発展という視点からも考えるべきだ」「避難するための歩道整備も進めて欲しい」などの意見も出た。

平成23年9月27日 千葉日報

房総沖地震の可能性語る

2日、一宮で専門家講演

一宮町は、同町のホテル一宮サイドオーツカ研修棟で10月2日、房総沖地震の可能性をテーマに、専門家による講演会を開く。

講演会では東日本大震災を受け防災意識が高まる中、災害に備えるため正しい知識を学んでもらおうと同町が企画。産業技術総合研究所海溝型地震履歴研究チームの穴倉正樹チーム長が講演する。

穴倉チーム長は東日本大震災の前から、福島県や宮城県の巨大津波の危険性について警告していた。研究所は今年、房総半島沖で政府が想定していない地震が繰り返して発生している可能性があると発表している。

講演会は2日午後1時半から、入場無料。問い合わせは一宮町役場総務課行政グループ ☎0475(42)2112。

平成23年12月27日 千葉日報

一宮町長が要望書

雇用不安払しょく求め

一宮町の玉川孫一郎町長は26日、工場売却が決まった大塚氏のナソニック液晶ディスプレイ茂原工場を訪問し、雇用不安の払しょくを求める要望書を提出した。

要望書には、非正規社員は正規社員に比べて週辺地域の住者が多く、一宮町からの雇用も、大企業としての社会的影響・責任の中で、雇用の不安を払しょくするよう対応を求めている。

同町によれば、パナソニックは正規社員は総務工場（兵庫県）で継続して雇用しているが、有期間社員については地元ハローワークと協議して再就職できるように努力したいとしている。

一方、同町は2012年度上半期で工場閉鎖する東芝コンポネートも28日、雇用不安を取り除くよう求める要望書を提出している。

茂原工場には現在約1500人が働いており正規社員は500人で、このうち1000人が有期間社員と派遣社員だが、内訳などは公表されていない。

撤退に伴い千葉労働局と県、大塚氏は茂原地域等緊急雇用対策本部」を立ち上げており、大塚氏は県の緊急雇用対策基金を活用し、失業者向けに50〜100人規模のつなぎ雇用を創出する方向で準備を進めている。

平成23年12月10日
読売新聞

一宮町長再選出馬へ

一宮町の玉川孫一郎町長（65）は9日の町議会定例会の一般質問で、「まだまだ道半ばの事業も多く残されている。町長として引き続き全力を尽くしたい」と述べ、来年5月8日告示の町長選に、再選を目指して立候補する考えを表明した。

玉川町長は、県職員を経て2008年の町長選に立候補し、初当選した。

平成23年10月4日 毎日新聞

10m級の津波！どこへ逃げれば？ 一宮町、避難地図製作

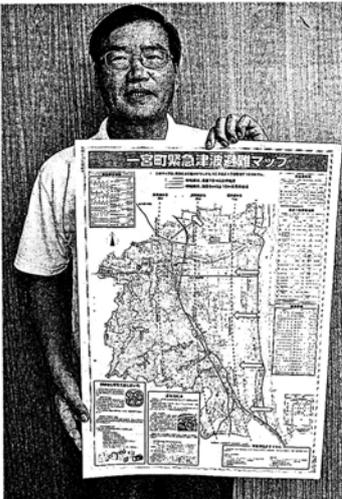
一宮町は町民向けに「緊急津波避難マップ」を製作した。10m級の津波に対する津波避難水想定区域を町単独で作成するのは現実的に難しいため、町は東日本大震災を踏まえ08年に作成した「サードマップ」を改定し、「大きな地震と感知したら、いち早く高台へ逃げる」を念頭に、海抜10m以上の区域を地図に示した。

また、町は海岸線から1m、2m、3mの地域を自発に一時避難場所として17カ所の公共施設などを指定した。

このほか保安林整備の見直し、防災行政無線の充実、さらに今いる場所の海抜を知る「海抜表示ポスター」の掲示などを行い、町民に周知する考えだ。

問い合わせは町総務課 ☎0475・42・2112。

【吉村建一】



吉村建一氏に配布される「緊急津波避難マップ」

平成23年11月29日 毎日新聞

一宮全町民対象 20カ所に避難 津波8m想定し訓練



一宮町で28日、全町民を対象とした初の津波避難訓練が行われた。震度6弱の地震発生約1分後、大津波警報が発令され、高さ8mの津波に襲われるとの想定。「災害が起きるのは週末と限定し、周辺住民や福祉施設入居者約1500人が集まった」として月曜日実施されたにもかかわらず、町民の4分の1以上にあたる約3200人が参加した。

参加者は、東日本大震災後に作製した「緊急津波避難マップ」に高さまで津波は来ないであろうが、もしもなったら……と不安そうに外を見つめていた。50代の女性は「私の避難所は海岸の方だけど、避難するには抵抗があるのでここに来ました。福祉施設の男性職員は「車いすのお年寄りは階段を上れない」と話していた。

町は「訓練後にアンケートを実施し、住民から寄せられた意見を分析する」という。

【吉村建一】

平成23年11月4日
読売新聞

二人三脚502組 一宮・ギネス認定



1004人が2人1組になって二人三脚を行って3日、一宮町の町立一宮中学校で行われ、いずれも200mを完走した。従来のギネス世界記録だった米国の491組を更新し、世界記録に認定された。

たくさんの方の夢を育てることを目的とした「夢の学校プロジェクト実行委員会」が企画した。都内や町内などから集まった502組が、片方の足をバンドで結んで校庭を一周。玉川孫一郎町長も、県のキャラクター「チーバくん」と完走した。

友人と参加した県立一宮商業高校2年小守雄介さん(17)は、「みんな一つになれた気がする」と満足そうだった。